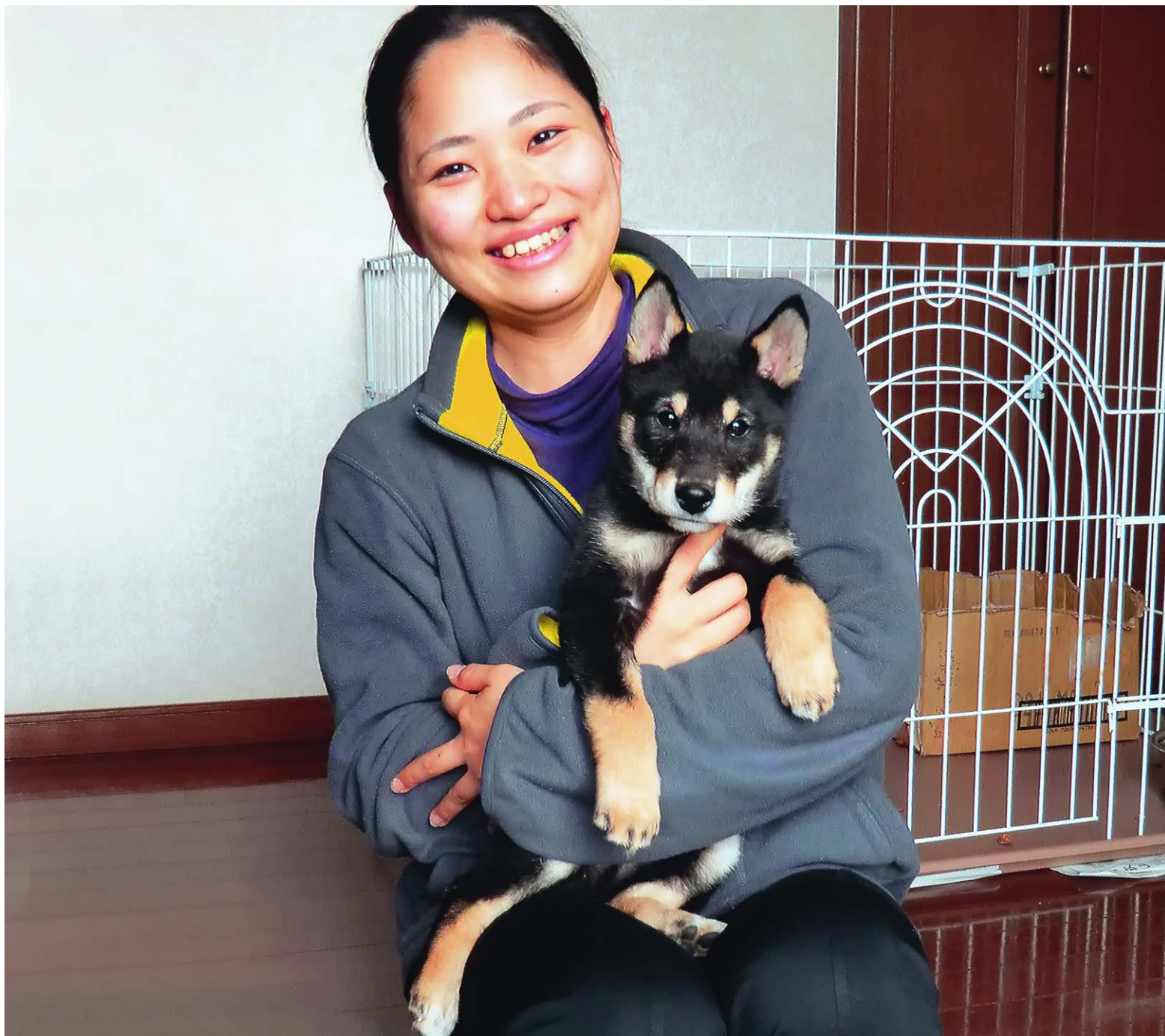


NPO法人



2014年 6月 1日
第22号

Jomon Shiba



特定非営利活動法人
縄文柴犬研究センター

もくじ

2014年度 総会・理事会 会議報告・総会報告	2
・理事会報告	3
交流会のご案内・岩手県滝沢森林公園・水辺の広場	5
次年度以降の交流会の会場募集	5
質問・疑問募集	5
シバの散歩道(22) ☆JSRC理事 根深 誠(文筆家・釣り師・元登山家)	6
お便りコーナー ☆愛知県・新美治一	10
断崖絶壁で見た琴の運動神経!!! ☆和歌山県・和田 修	10
「最近の太郎と、琴との様子」 ☆和歌山県・土山仁美	11
桜が咲くころに ☆愛知県・西谷智子	12
犬種の特性か個性か ☆石川県・黒梅 明	13
「良子」の近況 No.14 ☆富山県・竹内誠一	15
事務所報告 ☆新入会 ☆会費 ☆寄付金 ☆寄贈 ☆諸料金一覧 ☆血統登録について	16
総会資料 ☆別紙1:平成25年 事業報告	17
☆別紙2:平成25年 収支報告書	18
☆別紙3:2013年度監査報告	18
☆別紙4:2014年度の事業計画	19
☆別紙5:平成26年度予算書	20
交流会会場の交通アクセス	21
縄文柴犬研究センターの活動紹介(秋田県のNPO活動ニュース・県南版「ハンサン」より)	22
「北東北のクマゲラ」東奥日報社の紹介	23
「縄文柴犬ノート」五味靖嘉著 精巧堂出版	23



・会費や寄附などをお寄せいただいた方の氏名・県名を掲載させていただきますが、匿名を希望される場合は、お知らせください。

特定非営利活動法人 縄文柴犬研究センター

会事務所

郵便振替口座 02280-2-106951

〒 014-0073 秋田県大仙市内小友字堂ノ前119番地5

TEL 0187-68-2976

<http://www.jomon-shiba.com/>

encounter_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp

交流会のご案内

岩手県滝沢森林公園・水辺の広場

会場：岩手県滝沢森林公園・水辺の広場（略図：P21 参照）

総合案内所・管理事務所=ネイチャーセンター(Tel. 019-688-5522) 〒020-0605岩手郡滝沢市砂込1533-1

日時：2014年 6月28日(土) 午前10:00開会(受付9:30開始)・閉会：午後3:00

昼食は各自持参：各地の、お国自慢品の持ち込み歓迎！

企画1：愛犬自慢—交流会

企画2：勉強会—「縄文柴犬とは」質疑応答（パネル準備）

宿泊：犬も一緒に泊まれる所を検討中ですが、個々に申し込みを受け付けてから対応したいと思います。

人数によっては、自炊形式の楽しい懇親会を検討します。皆様のご参加をお待ちします。

4月20日、森林公園の下見をしました。雪が消えたばかりの森林は、今にも若葉が吹き出しそうな雰囲気でした。



出陳申し込み締め切り日：2014年 6月10日着

○出陳申し込み用紙を同封しました(本誌)ので、必要事項 記入の上、事務所まで送って下さい。

愛犬自慢の際の紹介に使います。

○また、参加・不参加に関わらず、愛犬の様子や質問など、お寄せ下さい。(会誌掲載の場合もあります)。

○準備の都合上参加の方は必ず記入して下さい。

○参加する犬の管理は各自の責任でお願いします。

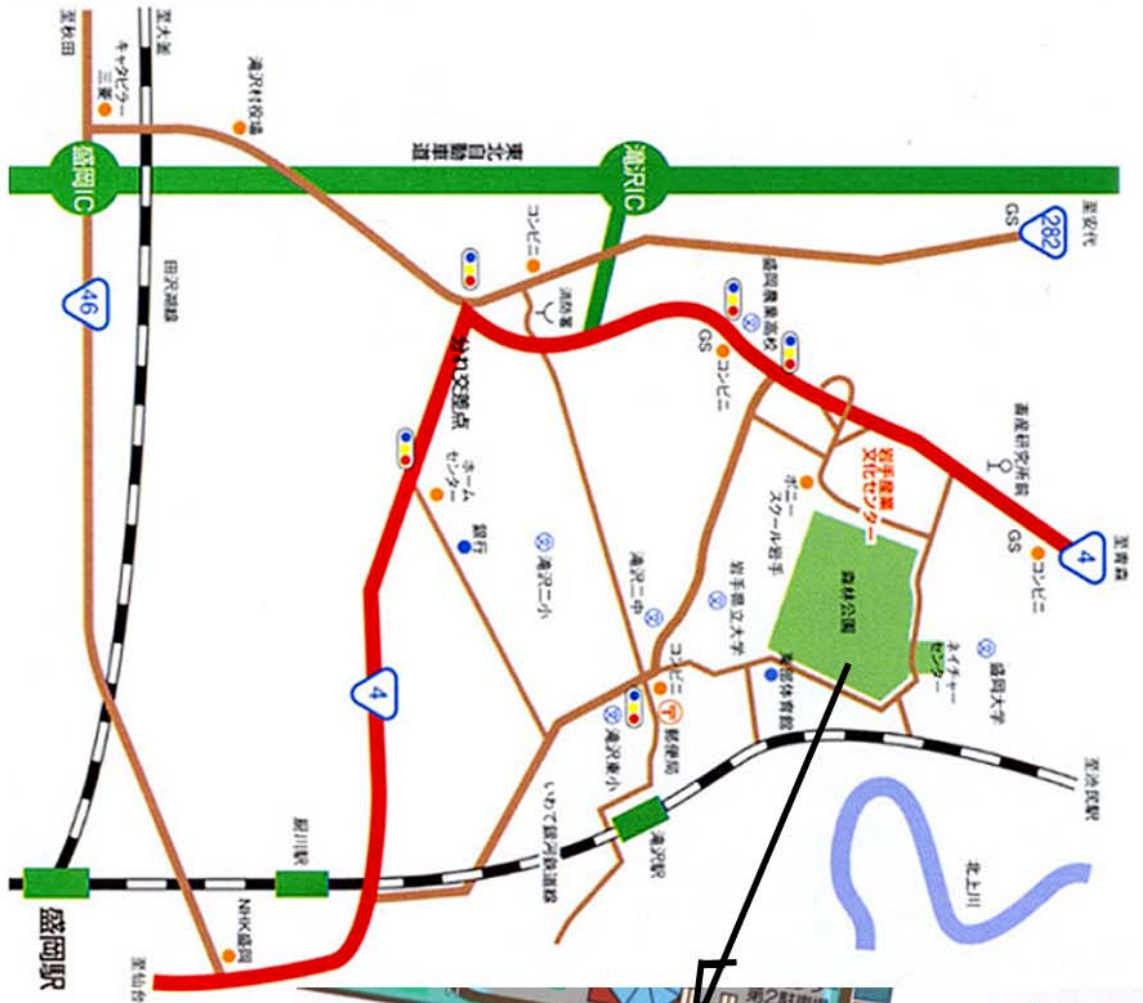
(係留用具・糞の始末など各自用意)

○雨具など、各自ご準備ください。

ご不明な点は表記・事務所へ問い合わせして下さい。

交通アクセス

- ・電車 IGR 滝沢駅から徒歩30分
- ・バス JR東北線 盛岡駅前から 産業文化センター行き(約30分)
- ・自動車 東北自動車道滝沢ICから約3分



会場
水辺の広場
駐車場

シバの散歩道 (22)

根深 誠 (文筆家・釣り師・元登山家)

二月に所用で秋田へ出かけたおり、郊外の目的地まで駅からタクシーに乗った。町並を抜けると、冬晴れの雪景色が眩いばかりに広がり、そこに見られる光の散乱反射がいちはやく春の兆しを伝えていた。

「いい天気だな、今年はいまのところ雪が少ないですね。これからまとめて降るのかな」

黙りこくっているのも不自然な気がしたので、退屈のぎに私は運転手に感想を述べた。運転手は、秋田市内はたいしたことはないが、県南の横手や湯沢は雪が多いと話した。それもそうだろうと思いつながら聞いていた。横手も湯沢も奥羽山脈の麓にある内陸部の町であり、昔から豪雪地帯で知られている。

運転手は生活をする上で雪が障害になっていかたいへんであるかを私に語った。何がどうたいへんなのだろうか、雪国なんだから、それをたいへんだと思ったところで何の足しにもならない。人はそれぞれの環境に適応し、生活することで文化を創り出すのではないだろうか。降雪のない地域の人たちの生活基準や心情を基準にすれば、何もかもが寒くて不便でたいへんなことになってしまう。たしかに灯油代が嵩むから、わが家ではたいへんである。

しかし一方で、雪の季節は精神的な安寧が得られる。春になると雪解けの生鮮な喜びも体験できる。悪いことばかりではないだろう。雪国全体については知らないので語る資格はないが、私の見たところ、必要以上に雪をネガティブに捉えて、たいへんだ、たいへんだという性向があるようだ。

運転手は私を東京方面からでも来た人と勘違いしたらしく、

「雪国のたいへんさは経験しなければわからないこと

だから」

などと、知ったようなことを言う。

しかも、そのたいへんさを切々と誇らしげに語るのも、「私は弘前から来たんです」

と、言わなくてもいいことを口に出してしまった。

「弘前はどうですか。私も桜を見に行っていたことがあります」

と、運転手は調子よく話の流れを切り換えた。

いったい、雪のどこがたいへんなのだろうと私は考えた。たへんだと思うのは自然災害のように捉えるからではないだろうか。極北の人たちがたいへんだ、たいへんだと雪を厄介物扱いにして被害者意識を持っているとは思えない。雨季のある東南アジアの人たちが降雨を厄介物扱いにしているとも思えない。むしろ神々からの贈り物として感謝しているのではないだろうか。太鼓を叩き、鉦を打ち鳴らし、笛を吹き、そのリズムに合わせて、早苗を持った人たちが雨に打たれながら田んぼに入って踊っている姿を見物したことがある。私にとっては感動的な光景だった。

翻って、温帯モンスーン気候の雪国ではどうか。天与の恵みとして感謝しているかどうかは疑わしい。首を傾げたくなる。

「雪が降らなければ水の問題で、私たちの飲料水にしても農業にしてもたいへんでしょ。生活が成り立たなくなりますよ。人だけでなく命あるものはたいへんですよ」

「たしかにその通りですね。お客さんは大学の先生か何かですか」

私はそう聞かれて、べつだん、驚くこともなく、違えますと答えた。



乾いた車道に、せっせと雪を撒き散らす住民。

※ ※ ※

毎年毎年、雪の降る冬になると私にとって厄介きわまりないのは、降雪よりも近隣住民による耳障りな雪かき騒音である。自分の敷地内の雪を公道に撒き散らし、ガリンガリン騒音を立ててスコップで打ち砕く。それを連日繰り返すのだから、私が察するに、その心理は異常極まりない。雪への対応の仕方に問題がありはしないか。

春になると自然に解けて消える雪を、自然の推移にゆだねることができないのである。四月に入って日当たりのいい場所で花が咲き出すころになっても、日陰に残っている雪を許せないのか、最後の一塊がなくなるまで一心不乱に雪かき作業を繰り返す。

日記ふうにつけている、今年の「シバの散歩メモ」から雪かきに関する部分を以下に紹介する。私としても毎日、メモするというわけにもいかないのだが、それにしても雪かきに関するメモの回数が多いということは、それだけ気に病んでいるわけである。

1月2日 雪

しばれた日で路面が凍結している。夜、向かいのオヤジが家から出てきてガリガリ、路面に凍りついた雪をスコップで削り出す。すると、隣近所のオヤジも出てきてガリガリ騒音を立てるといふ連鎖反応が見られる。しんしんとした冬の夜の静けさも台無しである。安眠妨害。

5日 雪

午前3時、除雪車出勤。そのあとすぐに、筋向かいのオヤジ、道路わきに寄せられた雪をガリガリやりはじめる。朝方、あちこちでガリガリガンガン、向かいの若者にいたっては金スコップで路面をこすって、少しでもこびりついている氷をガンガン打ち砕く。雪国の人たちは雪に対して異常な拒否反応を示しているようだ。

7日 曇り

午前3時、積雪もないのに除雪車出勤。路面に積もっている雪を削りとっている。べつに路面をむき出しにしなくてもよさそうなものなのに。まだ暗いうちから、近隣住民による静けさを破るガリガリ騒音がはじまる。なにも、まだ日も昇らない暗いうちにガリガリやらなくてもいいだろうと私は思う。毎日毎日、雪かき以外にやることがないようだ。まるでその人の人生を象徴しているように思われ、いらつく。

市役所がつくった流雪溝。



13日 雪

たいした降雪でもないのに除雪車出勤。庭の積雪は昨年、一昨年の半分以下。それなのにひっきりなしに雪かき騒音をたてて路面磨きに励むのはヒマつぶし、あるいは雪に対する強迫性障害ではないかと思う。路面のアスファルトがむき出すまでスコップを打ち振るい、自分たちの敷地の雪を道路に捨てなくてもいいではないか。人々は自分勝手に、住みにくい社会だ。人的環境がよろしくない。犬猫看板にしてもしかり。この地方には事大主義が巢食っている。これが地域の発展を妨げる要因だろう。

15日 小雪

ちかくの小公園に流雪溝ができて、その説明会があるので行ってみた。30人ほど集まり、市役所と建設会社の担当者が説明した。雪を運んで捨てるのだが、近所の数軒はいいかもしれないが、それ以外には効果がない。「実験」だそうである。500万円かかったという。

私が住んでいる桜ヶ丘は市内の住宅地ではいちばん降雪が多い。市街地は道路沿いの両脇に流雪溝が完備しているのに桜ヶ丘は今回の「実験」的な試みが最初である。市内でも遅れた地域になっているのは、何が問題なんだろう。住民のパワーと町会長の政治力の弱さかな。

27日 小雪、晴れ

深夜、四時過ぎ、除雪車出勤。そのあと向かいのオヤジ、ガリガリ騒音を出しはじめる。明るくなるとあちこちで終日、やり出す。雪かきのために生きているようである。雪が孕んでいる独特の静けさや明るさにはぜんぜん関心がないようだ。

先日、市役所が設置した流雪溝のパイプにゴミが上

流から流れてきて溜まったとのことで市役所の担当者が数人集まって掃除していた。機能を果たさないものを設置し、二週間足らずでゴミが詰まるようではまさに無用の長物である。広報や新聞、テレビで宣伝しただけで用をなさない。パフォーマンスに終わった。これにかぎらず、やたらとパフォーマンスを好む市長である。

29日 晴れ、曇り

朝、青空ひろがる。寒気が沁みて気持ちいい。近隣で騒音が鳴り響く。金属製のスコップで凍りついた路面を打ち砕き、そのあとスコップを箒代わりにして路面を掃き、さらにスコップをこすりつけて磨くのだ。向かいのババは連日、朝からひっきりなしに午前中午後と数時間にわたってそれを繰り返すからたまらない。私には無益な人生を暗示しているようでいたたまれない。近隣騒音を立て続けて日をつぶす。他人に迷惑をかけているとは知らず、自分では感心な行為とも思っているのだろうか。

妻が夜、帰宅の途中、しばれた路面で滑って転倒、後頭部を強打し、しばし立てなくなったとのこと。腫れていた。帰宅早々、患部をツララで冷やして就寝。

30日 雨

気温が上がり、雨。市役所の除排雪作業がはじまる。雨の中を近隣の人たちはここぞとばかり道路に雪を出す。まさに気遣いだ。向かいのババは雨の中をガリガリやっている。スコップを箒のように持って路面を掃くのだ。

2月17日 曇り

深夜、除雪車。積雪なしなのに除雪車とは税金を食



電熱線が埋設された市街地でも車道に雪を撒き散らす。

いものにする所業か。向かいのジジィ、道路わきに積んだ雪を朝6時前の暗いうちからガリガリ、目が覚める。その場所が私の部屋から4 ㍎ほどの斜め向かい。雪を手押しダンプに積んで、先日、市役所がつくった機能を果たしていない流雪場所にわざわざ運んでいる。うるさいので障子を開けたら私に気づいた様子で、ますます騒音を立てて路面を磨きだした。

隣近所がまめに雪かき騒音をたてるようになったのは、以前、向かいに引っ越してきて雪かき騒音で問題を起こしたタクシー運転手一家の私に対する当てこすりが乗り移ったかのようなのである。その一家は私が注意したのを逆恨みして両隣に言いふらした。「雪かきに文句をつける」と。それに対する巡査OBの弁が聞こえてきた。「雪かきサ文句つけたってどうスモンダして」私が問題にしているのは深夜の雪かき騒音なのであって、相手はそれを理解しようとはしていない。私が調停裁判に訴えたので、二年後、タクシー運転手一家はさんざん騒音を立てて嫌がらせをした挙句、引っ越していった。

市役所の道路維持課に、降雪がないのに除雪車が出動するのはどういうわけか問い合わせる。「路面整正」で出動したとのこと。私が見たところその必要はなさそうだった。ついでに聞いたのだが、平成20年8月から積雪10センチ以上のとき出動するとのこと。

28日 晴れ

昨夜から今朝にかけて小雨が降る。春らしくなるが、近隣の雪かき騒音には辟易する。夜9時過ぎ、路面整正車、家の前を走行。向かいのオヤジ、スコップを手待ち。ガリガリやりはじめる。

3月1日 晴れ

向かいのオヤジとその隣向かいの若者、朝から公道の路面に薄く残った雪をガッチンガッチンガリガリ、打ち砕いたり移動させたりかき回したりでいらつく。向かいのオヤジは出たり入ったりを繰り返す。行動が内面(精神)の発露であるとしたら、彼らはどんな精神構造をしているのだろうか。どんな生き方をしてきたのだろうか。私とは異なる世界に生きていることは間違いないだろう。元国家公務員のオヤジは年金暮らし。若者は無職のようだ。

2日 晴れ

朝の散歩で、乾いた路面に道路わきの雪をばら撒き、ガリガリンと騒音を立てていたオヤジと目が合った



車道わきの雪を
切り崩し、
踏み固める住人。

ので「おはようございます」と挨拶するとオヤジが「雪が硬くてよ」と言った。まだ日が当たらない朝の硬く凍てついた雪を金属のスコップで打ち砕き、日曜の朝の静寂を打ち破っていたのだ。「静かな朝から騒音を立てて近所迷惑になりませんか」と言うと、オヤジは腕時計をみて、「7時だからいいべ」と言った。そして弁解がましく「車道を歩く人が見えなくて」と言う。車道と歩道の間背丈以上の高さで塀のように、除雪車が寄せた雪が盛り上がっているのである。歩道を歩けばいいのに何を言っているのだろうと思った。屁理屈を述べるあたりが詭弁を弄する市役所の答弁に似ている。「ああ、そうですか。どうも」と別れた。

9日 晴れ、曇り

晴れた朝の清潔な雪景色を散歩していると心もそれに見合った明るく清らかなものになる。多くの人たちは朝から晩まで四六時中雪かき作業にかかわっている。年金受給者や仕事のない若者たちである。耳障りな騒音を立て続けて、何と非生産的な生き方を強いられているのだろうか。

暖気で屋根から雪解けの滴がしたたる昼下がり、自分たちの敷地の雪を道路にばら撒き、消え残っている路上の雪をスコップで打ち砕く。偏執的である。向かいのオヤジは雪かきを日課にしている。雪がやんだり小降りになったり晴れ間がのぞいたりするとそのつど家から出てくる様子は、穴から出てくるモグラを連想させる。その隣家のオヤジも張り合うようにして出てくるので「モグラ1号」、「モグラ2号」とニックネームで呼ぶことにした。近隣には他にも「チャイナ」や「イッチャッテル」や「ハリガネ」などいろんな住人がいる。

「モグラ1号」が朝方雪かきした後に、奥の若者が

午後になってから、いまごろ起きたのか、毎週そうなのだが、除雪機を3時間に渡って起動させた。幅3、4疔、奥行き十数疔の土地を3時間も動き回るのは除雪が目的ではなくデモンストレーションをしているのではないかと思う。おもしろいことに、デモンストレーションが終わった後に「モグラ1号」がスコップを手に出てきて雪かきならぬ雪掃除をしはじめた。

17日 晴れ

昨日で降雪は終わりかもしれない。気候は春らしくなってきた。乾いた路面のあちこちで雪をばら撒きガリガリガチンガチン騒音を立てている。風土病といえる。私はストレスが溜まり自家中毒に陥っている。

18日 雨

朝から雨の中で、雨具を着用して騒音を立てて雪を打ち砕いている向かいのババ。その隣の「モグラ1号」も出てきて道路わきの雪を切り崩し、路面に敷き広げて足で踏んでいる。雨に打たせて一刻も早く溶かそうとの魂胆なのだろう。ほっとけば消える雪になにをそんなに執着するのだろうか。

私が小学生のころ、3月15日と決められていたそうだが「雪切り」と称して市内でいっせいに大人たちがツルハシ・スコップで路面に積もった雪を切り出したものである。春到来の風物詩として年に一度の誰もが待ち望んだ「雪切り」だった。しかし、現在は除排雪が行われているのであり、ドライバーの障害になるので路面に雪を出すなど広報にも載っている。職業を問わず市民の多くはそれを無視し、四六時中騒音を立て続けている。マナーの悪い輩が多く、生活環境としてよろしくない。

秋田県のNPO活動ニュース・県南版より

地域でかがやく団体・企業をウォッチング

まじのなりのみりりとみぜ

THEME_ボランティア団体/NPO

生きる全ての生命に輝きを

～縄文柴犬の保存継承を通して
自然や環境問題を考える～



DATE_団体情報

特定非営利活動法人縄文柴犬研究センター（大仙市）

代表/新美 治一さん

連絡先/TEL. 0187-68-2976（事務局：五味さん）



しんしんと降り積もる真っ白な雪の小径。歩みを進めると来訪者を警戒したのか犬たちが吠え出しました。大仙市の特定非営利活動法人縄文柴犬研究センターは柴犬の中でもより野生に近いといわれている縄文柴犬*1の研究と保存継承を行っています。

縄文柴犬から、人間と自然の調和を見る

はじめは30数年前、副理事長の五味靖嘉^{こみやすよし}さんが買ったばかりの仔犬を立て続けに亡くしたことです。それがきっかけで犬の研究を始めた五味さんが一筋の光明を見出したのが、知人の紹介で出会った縄文柴犬でした。現在、ほとんどの犬は愛玩用として人間に改良され、本来の性質が失われていることを知った五味さん。そこから生き物は元来備わったバランスの中で生きることが最も幸せであると考えようになったといいます。

犬の研究を通して感じた自然と生き物のあるべき姿を社会に発信し、貴重な種の保存をしていきたい。この思いから五味さんと研究仲間は平成21年に団体を設立しました。会員は全国に250人。ホームページを通して大きくその輪が広がりました。

た。毎年行う会員の交流会は互いの絆を深め、活動への励みとなる有意義な時間。全国各地の仲間が犬と共に集い、繁殖や飼育に関する情報交換、勉強会などを行っています。

また会員同士をつなぐ年4回の会報発行にも力を入れています。農家が縄文柴犬を飼うことで熊が警戒して近寄らなくなり農作物被害が無くなった等、犬に関する研究事例や会員から寄せられた近況報告を掲載しています。

五味さんは「犬の活用により野生動物との共存も可能。犬の研究を通して人間が自然の調和を乱してきたことに気づく。将来的に犬を通して多くの人に自然や環境に目を向けてもらい、自然とのつながりを感じつつ、豊かな人間生活を送る社会になることを期待している」と語りました。そこに生きるすべての生命に本来の輝きを。犬を通して、自然や生きとし生きるもの全てに目を向ける法人の活動は、自然と調和して生きる豊かな社会構築に向けた原動力として全国に広がりを見せています。☑

*1 全国各地の縄文遺跡から発見された犬の頭骨と類似することから名づけた

「北東北のクマゲラ」 2004.10.30 東奥日報社 の紹介

監修：本州産クマゲラ研究会代表・藤井忠志

「待望の本州産クマゲラに関する写文集を編集した。編集段階で色々に掲載したいものが多くなり、その都度ポジフィルムを探すのに、膨大な時間が経過した。本州での全繁殖地のクマゲラを登場させたいということもあり、中には写文集に耐えないものもある。しかし1980年以降の林野行政による伐採の最中、1年だけの繁殖確認に終わったものもあり、今となってはそれが数少ない証拠となる記録写真である。。。。。」終わりにから引用

東日本大震災以降、震災関連の記事や著書が多く、自然に焦点をあてた書物が少ない観があります。本書は、クマゲラの生態写真はもとより、古記録までをたどり、さらにブナ林内に生息・生育する動植物等を鮮明な画像で紹介しています。また巻末には、クマゲラの音声CDを附録として添付し、クマゲラの情報収集に役立てようとしています。

定価：2,500円ですが、会員価格2,000円+送料160円の計2,160円でお送り致します。(実質価格は5,000円もするハードカバーA4サイズです。)



申込先：本州産クマゲラ研究会（代表・藤井忠志）宛
住所：〒020-0002岩手県盛岡市桜台1-35-14 ☎019-667-1072
郵便振込口座：02350-2-6585 ・加入者名：本州産クマゲラ研究会

「縄文柴犬ノート」 五味靖嘉著精巧堂出版 (2012. 3. 20)

定価(1800円+税90円+送料110円)=2000円申し込みは表記事務所まで

推薦文

「縄文柴犬研究に人生の半生をかけた著者。縄文柴犬とは何か？縄文柴犬をなぜ保存するのか？縄文柴犬はどのような観点で見るといいのか？誰もが理解しているようで理解されていない根源的なことを、わかりやすい語り口で表現している。本書は初心者から研究者まで広く興味を持って読むことができる、縄文柴犬および犬のルーツでもあるニホンオオカミに迫る入門的専門書である。縄文柴犬研究センター会員のみならず縄文柴犬に関心をもたれる方の必読書として、是非、推薦する。」

藤井忠志 縄文柴犬研究センター理事
本州産クマゲラ研究会代表
岩手県立博物館 学芸部長



<http://www.jomon-shiba.com/>

発行所 NPO法人 縄文柴犬研究センター
NPO CO. Jomon Shiba Inu Reserch Center
郵便振替口座 02280-2-106951

〒014-0073 秋田県大仙市内小友字堂ノ前119番地5
発行者 五味靖嘉 Tel.0187-68-2976 (FAX共用)

印刷製本：精巧堂印刷所 〒014-0026大仙市大曲丸の内町3-5

許可なく本誌の複写転載をお断り致します。

2014年 6月 1日 22号 定価1000円

